

勸化本書誌解題（八）

— 実践女子大学図書館山岸文庫所蔵本 その二 —

土屋 順子

はじめに

実践女子大学図書館山岸文庫所蔵の勸化本六作について報告をする。なお、表題の「勸化本書誌解題（八）」とは、凡例に記した拙稿に続くの謂である。

凡例

- 一 書名は『国書総目録』に準じた。
 - 一 書名の下に、（ ）を用いて、請求番号を記した。
 - 一 原則として初版本の刊行順に配列した。
 - 一 同一内容の本が二点以上ある場合は、便宜上「A」「B」と区別した。
 - 一 漢字の表記は、原則として旧字体は新字体に改め、異体字を通行の文字に変えた。
 - 一 本文等の引用は私に句読点を補い、適宜ルビを取捨した。
-
- 一 欠落・虫損等で判読不可能の文字は「*」で補った。
 - 一 「構成」の項では各巻毎に合計丁数を示し、（ ）内に、各項目丁数、「」を用いて丁付を記した。丁数の記載がない場合は「ナシ」と記した。丁の表で終わっている場合は〈表〉と表記した。
 - 一 「備考」に参考論文、翻刻を掲載した。
- なお、「備考」に記した「解題（一）」とは、拙稿「勸化本書誌解題（二）」（『実践国文学』46号、平成6年10月）のことである。
- また、拙稿「勸化本書誌解題（五）」（『実践女子大学

文芸資料研究所 年報」17号、平成10年3月）に、山岸文庫所蔵の勸化本十作の書誌・解題を収めた。

蔵書印
備考

「山岸文庫」複郭長方朱印。

該本は巻一のみ存するため刊年不明。また『国書絵目録』にもその名を見ない。作者は『近世往生伝』を著した如幻明春。明春について、後小路 薫氏「『近世往生伝』の性格―著者明春の教化意識―」（『文藝論叢』18号、昭57年3月）、「如幻明春の著述―『浄土勸化撮要鈔』巻一・二」（『別府大学国語国文学』39号、平9年12月）に詳しい。また後者論考によれば、本書は四巻四冊、初版は不明であるが、本書を元禄八年刊と推測する。元文二年丹波屋伝兵衛求版『浄土勸化撮要鈔』の紹介及び巻一・二の翻刻を収録。同氏「『浄土勸化撮要鈔』承前」（『別府大学国語国文学』43号、平13年12月）に巻三・四の翻刻を収録。

浄土勸化撮要鈔 (二〇三五)

書型 大本一冊。一巻のみ存。
表紙 朽葉色無地。縦二十六・三糎×横十八・六糎。
題簽 手写。左肩「浄土勸化撮要抄」。打付書き（墨筆）。
目録題 「浄土勸化撮要鈔卷之一」。
内題 「浄土勸化撮要卷第一」。
尾題 「浄土勸化撮要抄卷之一終」。
版心 「○勸化撮要鈔〔黒魚尾〕卷之一（丁数）」。
序文 無し。
構成 一之巻 二十三丁半（目録二丁「一」、本文二十二丁半「二」「三」：「廿四」〈表〉）。
本文匡郭 四周单辺。無界。縦二十・七糎×横十六・四糎。
用字 本文 一面十一行。漢字交じり片仮名、ルビ有。
挿絵 無し。
作者 如幻明春。
刊記 不明。

隅田河鏡池伝 (二一六〇)

書型 大本五卷五冊。
表紙 縹色無地。二十六・四糎×十八・八糎。
題簽 子持梓左肩「勸化隅田河鏡池伝 木母寺来由一（五）」。十八・二糎×三・二糎。

見返し 三分割して、右側に「春帳子遺稿」、中央に書

名「隅田川鏡池伝」、左側に「東都書肆文刻堂藏」。

目録題 「隅田河鏡池伝巻第一（五）」。

内題 「隅田河鏡池伝巻第一（五）」。

尾題 「隅田河鏡池伝巻一（四）終」。巻五は無し。

版心 「鏡池伝巻一（五）〇（丁数）」。

跋文 「鏡池伝跋」。

「寛延二己巳三月十五日 東都桑門含蓮社」。

構成 一之巻十七丁半（口絵二丁「ナシ」、目録一丁

「初」、本文十五丁半「二三」：「十六」〈表〉）。

二之巻二十丁（目録半丁「初」〈表〉、本文十九

丁半「二」「三」：「八」「九ノ十二」「十三」

：「二十四」〈表〉）。

三之巻十七丁半（目録一丁「初」、本文十六丁

半「二」「三」：「六」「七ノ十」「十一」：

「廿一」〈表〉）。

四之巻十丁半（目録一丁「初」、本文九丁半

「二」「三」：「五」「六ノ十一」「十二」：「十

六」〈表〉）。

五之巻十七丁（目録一丁「初」、本文十三丁

「二」「三」：「八」「九ノ十二」「十三」：

「十七」、跋文約半丁「十七」〈裏〉「十八」〈表〉、

蔵版目録三丁半「ナシ」。

本文匡郭 四周単辺。無界。縦二十・〇糎×横十四・八糎。

一行数 本文十二行、跋文は九行分のみの記述。

用字 本文 漢字交じり片仮名、ルビ有。

跋文 漢字交じり片仮名、ルビ有。

口絵 一之巻半丁二面「梅若丸肖像」・「妙亀尼道影」

の画。「直奏法橋遊川春信七十八歳画」とある。

作者 一之巻内題下に「春帳子遺稿」、五之巻本文末

に「西向庵春帳」とある。

刊記 「寛延四辛未歳／書林／大坂心斎橋筋順慶町

洪川清右衛門／京堀川錦上ル町 西村市郎右衛

門／江戸本町三丁目 西村源六」。

識語 「昭和四己巳年大簇五」（山岸氏、墨筆）。

蔵書印 「山岸文庫」複郭長方朱印。

備考 該本及び大谷大学図書館蔵本が初版。その後、

明和三年に大坂吉文字屋市兵衛・江戸吉文字屋

次郎兵衛の求版本、安永十年には同大坂吉文字

屋市兵衛・江戸吉文字屋次郎兵衛から『梅若丸

一生記』と改題され、かつ十冊本に仕立直され

て刊行された。その後、再び書名が『隅田河鏡

池伝』に、体裁が五冊本に戻されて、長村太

助・小峰儀兵衛から刊行された。その際、「安

永十辛丑歳／書林」を残し、書肆名の部分を埋

木によって改めた。国会図書館本はこの版に該当する。また初版本には跋文末に「寛延二己巳三月十五日／東都桑門含蓮社」とあるが、この年記の部分は、安永十年「梅若丸一生記」刊行の段階で削除されている。

横山邦治氏「序にかえて「都鳥妻恋笛」から「隅田川梅柳新書」へ」(『読本の研究』風間書房、昭和49年4月)。石川俊一郎氏「近世梅若物の一考案『都鳥妻恋笛』他二篇の書誌―」(慶応義塾大学国文研究室編『梅若縁起の研究と資料』国文学論叢新集八、桜楓社、昭和63年1月)に本書の詳細な書誌解題が備わる。

※「解題(一)」参照。

勸化本朝新因縁集 (二五九二)

書型 大本五卷五冊。
紙 縹色布目型押し文様。縦二十五・八糎×横十・二糎。
題 単梓左肩「勸化本朝新因縁集一(〜五)」。縦十
八・六糎×横三・四糎。
序 題 「勸化本朝新因縁集序」。

目録題 無し。

内題 「勸化本朝新因縁集一(〜五)」。

尾題 「勸化本朝新因縁集一(〜五)」。巻五のみ「終」と付す。

版心 「本朝新因縁集一(〜五) ○(丁数)」。

序文 「撰陽釈曇慧書／印印」。

構成 一之卷 十七丁(序二丁「初」、目録二丁「初」、本文十五丁「一」「二」：「十五」)。

二之卷 十二丁半(目録半丁「初」〈表〉、本文十二丁「一」「二」：「十二」)。

三之卷 二十九丁(目録半丁「初」〈表〉、本文二十八丁半「一」「二」：「二十九」〈表〉)。

四之卷 三十一丁半(目録二丁「初」、本文三十丁半「一」「二」：「三十一」〈表〉)。

五之卷 三十四丁半(目録二丁「初」、本文三十一丁半「一」「二」：「三十二」〈表〉、藏版目録二丁「ナシ」)。

四周単辺。無界。縦十九・四糎×横十四・四糎。

本文 一面六行。漢文。

挿絵 無し。

作者 「沙門蓮盛」。

奥付 「皇都書林／寺町通五条上ル町／藤井文政堂／

蔵版目録

山城屋佐兵衛」。

「仏書目録」二丁。「書林京寺町五條上ル町／山城屋佐兵衛板」。

蔵書印

「山岸文庫」複郭長方朱印。「山城屋／本／彦」(円形黒印)。

備考

刊年不明の後印本。大妻女子大学所蔵本も該本と同じ。卷末の山城屋佐兵衛蔵版目録には寛政四年刊『靈魂得脱物語』等が記載されているので、その頃の再版本か。初版は宝暦四年、東海女子短大関山文庫本があるが、未見。

本作卷一冒頭に作者蓮盛が次のように記す。

「世二和漢因縁ノ書版行多ク流布ストイヘ共、中興ノ因縁マレナリ。今予ガ集ル所ノ新因縁集ハ都鄙行脚ノツイデニ見聞シテタシカナル因縁ヲエラミテ之ヲ梓行ス」。

作者の蓮盛について、後小路薫氏「教化の旅と説話―蓮盛と蓮体の行脚―」(『国文学解釈と鑑賞』第55巻第3号、平成2年3月)に詳しい。内容は以下の通り。

卷一

- 親ニ不孝ナル者現罰ノ事 二ヶ条
- 閻王宮ニ往テ世々ノ報果ヲシル事
- 臨終日出度男ノ事
- 冥ノ加護ニテ鬼病ヲ脱ル僧ノ事 二ヶ条

神明ヲ欺現罰ヲ蒙ル事 二ヶ条
不動ノ人天ノ責ヲ蒙ル事
盲人仏ノ告ヲ蒙ル事

殺生ニ依テ発心スル縁ノ事
殺生スル所地獄現スル事
水ニ溺レ死タル者ノ靈怨ヲナス事

地獄ニ墮ルモノ伝言スル事 二ヶ条
虚ク信施ヲ費セル僧臨終悪相ノ事
殺生シテ現ニ酬フ事 七ヶ条

骸骨ノ怨ヲ報フ事
白骨ノ経読ム事
貴僧亡者ヲ引導スル事

卷三

人ヲ殺セル者子孫ニ酬フ事 二ヶ条
信心ノ女人往生靈験ノ事

念仏ノ功德信施ノ罪ヲ滅スル現証ノ事
念仏ノ行者種々瑞相アラハル、事 三ヶ条

女人ノ執心鼠ト成テ夫ヲ殺ス事
鼠ノ怨ヲ執フ事

卷四

- 亡靈現シテ死ヲ告ル事
- 臨終正念ノ俗士ノ事 二ヶ条
- 名号ノ功德靈魂ヲスクフ現証ノ事
- 正法ヲ誹謗スルモノ火車来現スル事
- 天狗怪異ノ事 四ヶ条

卷五

念仏受戒ノ功德ニテ色欲ノ罪ヲ滅スル僧ノ事
 姪色ヲ売テ世ヲ渡ルモノ地獄ニ墮ル事
 悪心ノ女人臨終ニ鬼トナル事
 念仏結縁ニ依テ人ニ生ル、狗ノ事
 善光寺如来ノ告ニ依惡知識ノ縁ヲ切ル事
 真言ノ行者靈驗ヲ感ズル事
 夢ニ八寒地獄ニ入テ現身苦シムル事
 靈來テ自他ノ生処ヲ示ス事
 執心フカキ女死屍起アガル事
 念仏感応ノ事
 鯨ノ靈ノ事
 殺生スル者現報ヲウケシ事
 牛ヲアシクシテ報フ事
 父ノ後身ヲ痛メテ現報ヲウクル者ノ事
 愚癡不審ノ者死テ犬ニナリシ事
 女人之靈人ニ託シテ冥途物語スル事
 壬生ノ地藏利益ノ事
 鎌倉長谷寺ノ觀音ノ事
 現ニ牛トナル女人ノ事
 生ナガラ狗ニナル法師ノ事
 三十三所觀音巡礼賞罰ノ事
 臨終ノ障リニ依テ生カエル僧ノ事
 女人ノ亡靈家内ニ現ズル事

勸化五衰伝

(一九九〇)

弓箭筋有モノ其難通レ難キ事
 妻ノ亡靈ヲ見テ発心スル事
 大磯ノ虎ト云女人ノ亡靈追薦ヲ願フ事
 曾我十郎祐成得脱ノ事
 夢ニ主人ノ地獄ニ落タルヲミル事
 無慚ノ法師死屍ヲ食フ事
 嗟峨ノ釈迦御身拭ノ事

書型 大本五卷一冊。
 表紙 縹色無地。縦二十五・八糎×横十七・八糎。
 題簽 原題簽は剥落、左肩に「勸化五衰伝 完」打付
 書き(墨筆)。
 内題 「勸化五衰伝卷之一(一四)・卷五」。
 尾題 「勸化五衰伝卷之一(一五)」。
 版心 「五衰伝卷一(一五) (丁数)」。
 序文 無し。
 跋文 無し。
 構成 一之卷 本文十五丁半(一)〔二〕…〔十六〕
 (表)。
 二之卷 本文十六丁半(一)〔二〕…〔十七〕

(表)。

三之卷 本文十四丁半 (一) (二) (三) …… (十五) (表)。

四之卷 本文十六丁 (一) (二) (三) …… (十六)。

五之卷 本文十七丁 (一) (二) (三) …… (十七)。

本文匡郭 四周単辺。無界。縦十九・五糎×横十四・一糎。

用字 本文 一面九行。漢字交じり片仮名、ルビ有。

挿絵 無し。

作者 「誓誓」。

奥付 「安永六年丁酉正月求版／京都書林／東六条中

珠数屋町池田屋七兵衛／堀川通綾小路下ル町錢

屋莊兵衛／寺町通錦小路上ル町錢屋利兵衛」。

広告 「勸化五衰伝全部五冊 熊野山本地縁起三國ノ由来

其外因縁事委ク記ス／安部仲麿入唐記 全部四

冊／泉州信田白狐伝 全部五冊／本朝新因縁集

全部五冊」。

識語 「持主大國浄空 天明二寅ノ八月求之」(墨筆)。

蔵書印 「山岸文庫」 複郭長方朱印。「岸之舎藏」 長方

朱印。 本書の冒頭には次のようにある。

「上来ハ享保ノ末武江ハ官町辺ニテ講談ノ砌

彼老婆ノ夢物語ヲ古老ノ咄ニマカセテ勸化ノ助

縁ニモナルベキ哉ト筆ニマカセテ此カシコ留置

タルヲ書林ノ望ニマカセテ其レナガラニ遣ハシ

ヌ」。

享保のころ江戸で講談が行われていたこと、本

書が「勸化ノ助縁」を目的としていたこと、ま

た「書林」が誰を指すのか不明であるが、書林

の求めに応じて上梓したことが知られる。『割

印帳』には「版元売出 奥村喜兵衛」(宝曆七

丑三月廿四日)とあるので奥村喜兵衛か。誓誓

作『泉州信田白狐伝』(宝曆七年刊)、『安部仲

麿入唐記』(宝曆十年刊)も版元は奥村喜兵衛

である。

山下琢巳氏『『勸化五衰附録』——江戸中期説教

僧の捉えた(熊野の本地)』(『東京成徳短期大

学紀要』32号、平11年3月)に報告が備わる。

安部仲麿入唐記 A (三四一四)

書型 大本四卷一冊。

表紙 縹色無地。縦二十六・二糎×横十八・〇糎。

題簽 子持杵左肩「安部仲麿入唐記」。縦十七・七

糎×横三・四糎。

序題 「阿倍仲麿入唐記」。

目録題 「阿倍仲麿入唐記」。

内題 「安部野仲麿入唐記卷一（三三）」、「安部仲麿入唐記卷二」、「安部野仲麿入唐記卷之四」。

尾題 「安部仲丸入唐記一終」、「安部ノ仲丸入唐記卷之三終」。一・四之巻は無し。

版心 「仲丸入唐記卷一（四）（丁数）」（目録は「仲麻呂入唐記目録」）。

序文 「宝曆十庚辰年十月／武陽影向山沙門道阿謹識〔印〕」。

構成 一之巻二十一丁（総目録二丁「ナシ」、序文二丁「一」「二」、本文十八丁「一」「二」：「十八」）。

二之巻 本文十五丁「一」「二」：「十五」。

三之巻 本文十七丁「一」「二」：「十七」。

四之巻 本文十五丁「一」「二」：「十五」。

本文匡郭 四周单边。縦二十・三糎×横十四・六糎。

一面行数 序六行、本文十二行。

用字 漢文。

挿絵 本文 漢字交じり片仮名、ルビ有。無し。

作者 「武州川崎隱居沙門誓譽編」（四之巻裏見返の本文末）。

奥付 「于時宝曆七丁丑歲晚秋望頃／京寺町五条上ル

町 梅村判兵衛／江戸芝神明前 奥村喜兵衛

（四之巻裏見返）。

広告 「勸化五衰殿 全五冊出来／泉州信田白狐伝

全五冊出来」（四之巻裏見返）。

蔵書印 「山岸文庫」複郭長方朱印。

備考 本書は、宝曆七年の刊記を有するが、実際に刊

行されたのは宝曆十年らしい。「割印帳」で確

認すると、宝曆七年と同十年と二回の願出が出

ており、宝曆十年に道阿なる沙門の序文を付加

した後に、刊行に至ったのではないかと思われる。

その他、錢屋利兵衛刊寛政二年求版本も存する。

卷二末蔵版目録中に、「勸化五衰殿」「五衰殿附

録」「勸化泉州信田白狐伝」「勸化阿倍仲麿入唐

記」「勸化三英大夫」の書名が見える。本書は

仏教長編説話の一つで、『泉州信田白狐伝』と

連作をなしている。

横山邦治氏 「安倍仲麿 絵本輪廻物語」につい

て「生死流転 生死流転 絵本輪廻物語」につい

て「読本の研究」風間書房、昭和49年4月）、

渡辺守邦氏 「狐の子別れ」文芸の系譜」（『国

文学研究資料館紀要』15号、平成元年3月）。

山下琢巳氏 「近世中期勸化本と草双紙―その影

響関係について」（『日本語と日本文学』平11年

9月)。

寛政二年求版本の紹介及び翻刻に、成田守氏「安部仲麿入唐記(一)」、「大東文化大学紀要(人文科学)」36号、平10年3月、「安部仲麿入唐記(二)」、「大東文化大学紀要(人文科学)」38号、平12年3月がある。
※「解題(一)」参照。

安倍仲麿入唐記 写本 (三四一五)

書型 大本五卷一冊。
表紙 薄茶色無地。縦二十六・三糎×横十五・一糎。
題簽 手写。单粹左肩「安部仲麿入唐記」(墨筆)。縦十二・五糎×横三・四糎。
目録題 「安倍仲麿入唐記」。
内題 「安部野仲麿入唐記卷之二」、「安部仲麿入唐記卷之二(三)・卷四」、「安部仲丸入唐記卷五」。
尾題 「安部仲麿入唐記卷一(二・四)終・卷之三終」、「安部仲丸入唐記卷之五大尾」。
序文 無し。
構成 一之卷 二十一丁(総目録三丁、本文十九丁)。
二之卷 本文二十丁。

三之卷 本文十七丁。

四之卷 本文十四丁。

五之卷 本文十七丁。

字高 二十一糎。

一面行数 本文七行、約二十六字。

用字 本文 漢字交じり片仮名、ルビ有。

挿絵 無し。

作者 誓誓。

識語 ①「北越後州俵沢駅／嘉永四年／五月吉辰／菩提山住沙門大嚴花押／写之」(墨筆)。

②「昭和十年五月十七日足利学校訪書□□／岸

廼舎」(山岸氏、墨筆)。

蔵書印 「山岸文庫」複郭長方朱印。

版本の写し。多少の文字の異同はあるが、ほぼ忠実に書写している。但し版本四冊本を五冊本にしているため、該本では内容にかかわらず、各巻途中で巻が移る。管見の範囲では版本は四冊本なのだが五冊本があるのかは不明。
※「解題(一)」参照。